

○議長 横尾 武志君

1 番、松上議員の一般質問を許します。松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

こんにちは。1 番、松上でございます。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず、学力向上についてという点で 2 点ほど、1 点目は、冊子「芦屋の教育」について。2 点目は、文部科学省全国一斉学力テストについて。この 2 点について、質問させていただきたいと思います。午前中の内海議員の質問と重なる部分があるかと思いますが、ご了承ください。

では、早速質問に入らせていただきます。まず、1 の冊子の冒頭のページに発行にあたってはの末尾のところ、  
「活動などの紹介をし、皆様のご批評をお願いするもの」とありますが、これまでこの冊子に対する批評はありましたか。あったのであれば、具体的にどのような内容だったのか。また、その内容をどのように取り扱われたのかお伺いしたいと思います。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

特になかったと記憶しています。北九州教育事務所管内でも発刊しているところはなく、高い評価をいただいています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

何もなかったということですね。わかりました。

続きまして、2 点目に入ります。学力向上については、「児童・生徒の現状を把握し適切な指導を行うため学力テストを実施し、その分析結果に基づき、適切な指導を行います。」とありますが、25、26 年のテストの結果はどうだったのか。また、その結果に基づきどのような指導をされたのかお伺いいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

25 年度の全国学力・学習状況調査では、小学校では、国語 A は全国、県の平均よりもかなり上回っており、領域別でも全領域において、上回っています。特に書くことの領域は大きく上回っています。国語 B は、全国、県の平均とほぼ同じですが、読む能力の領域でやや上回り、言語についての知識、理解面でやや下回っています。算数 A は、全国、県の平均とほぼ同じですが、数量関係でやや上回り、数と計算の領域でやや下回る傾向でした。算数 B は、全国、県とほぼ同じ結果ですが、数と計算領域でわずかに上回り、量と測定

領域でやや下回る傾向でした。

中学校では、国語Aは、全国、県とほぼ同じ結果ですが、書くこと、読むことの領域でわずかに上回り、言語についての知識・理解でわずかに下回る状況でした。国語Bは、全国、県の平均をわずかに下回り、特に言語についての知識・理解の領域でやや下回る傾向が見られました。数学Aは、全国、県の平均をわずかに下回り、特に数と式、資料の活用などの領域でやや下回る傾向が見られました。数学Bは、全国、県の平均をやや下回っており、特に図形、関数の領域を苦手としている状況が見られました。

このような結果に基づき、福岡県重点課題「基礎・基本を活用する力を育む授業改善」の一年次として、「基礎的・基本的な知識及び技能を活用する力の育成、言語活動に着目した学習過程を通じて」を研究の主題に置き、芦屋型授業過程「教える、考えさせる、わかる、できる」のそれぞれの段階で行うべき言語活動のあり方を研究し、活用する力の育成を図る。また、この研究の基盤となる基礎・基本の力については、モールステップアップと繰り返しのテストで確実に身につけさせるように指導しています。

26年度の全国学力・学習状況調査では、小学校では、国語Aは全国、県の平均よりもわずかに下回っており、領域別でもほとんどの領域で、全国、県と同様ですが、今まで芦屋町の子どもが得意としていた伝統的な言語文化の領域で、やや下回る結果となっています。国語Bは、全国、県の平均よりもやや下回っており、全ての領域で全国、県を下回る状況です。ここでも伝統的な言語文化の正答率が、最も全国と比較して下回る状況にあります。算数Aは、全国、県の平均とほぼ同じであり、数量関係の正答率で全国を上回り、量と測定の領域でやや下回る傾向にあります。算数Bは、全国、県の平均よりやや下回り、数と計算領域ではほぼ同じ結果ですが、他の領域ではやや下回る傾向にあります。特に活用力を問う数量関係で、差が開いています。

中学校では、国語Aは全国、県とほぼ同じ結果ですが、話すこと・聞くことの領域でわずかに上回り、書くことの領域でわずかに下回る状況にあります。国語Bは、全国、県の平均をやや下回り、領域別でも全領域でやや下回る傾向で、特に書くことや伝統的な言語文化の領域で下回る傾向が見られます。数学Aは、全国、県の平均をわずかに下回り、特に図形、関数などの領域でやや下回る傾向が見られます。数学Bは、全国、県の平均をわずかに下回っており、数と式の領域では、全国を上回る状況で、図形、関数の領域でやや下回る状況が見られます。

この結果に基づき、福岡県重点課題「基礎・基本を活用する力を育む授業改善」の二年次として、中間報告会を行いました。授業でもその内容が反映された取り組みが行われ、子供たちの生活状況調査にもその成果が映し出されている部分もあることからさらに研究を深め、子供たちの姿に反映できるように取り組みを深めるように指導しています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

具体的に説明をしていただきましたけども、実際にどれくらいの実力があるのかというのがよくわかりかねますので、ここで小学生の国語、これは国県の平均を上回っているということでございますが、国は難しいかもしれませんが、県とか郡の中で何番目くらいに位置するのか、これを教えていただきたいと思いますが。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

まず、結論から言います。郡内で何番とかいう数字は出ておりません。これは、新聞報道では、県からざっと並べてますね。北海道からずっと並べています。報道関係は、並べかえたら順番が出てまいりますけど、公式にはそういう、これは目的が序列化を見るとかそういう目的ではございませんから、そういう順番というのは出していないというように理解しています。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

県も出ていないのですか。県は出ているのでしょうか。県内の何番なのか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

それは出ていません。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

そしたら、26年度も一緒ですね。出ていないということですね。わかりました。なければ、おおむね予想なんかもつかないんですね。どれくらいのレベルであるんだということは。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

先ほど、町長の答弁の中にもちょっとありましたけど。郡内だけで見ますと、岡垣、遠賀、芦屋、水巻というのは、そういうところかなあという予想はつきます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

平成 26 年第 4 回定例会（松上宏幸議員一般質問）

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

そしたら、3 番目に入ります。

冊子によると、確かな学力の向上のための取り組み推進の評価については、25 年度、26 年度ともに芦屋型指導過程の実践で評価 3 以上を目指すとありますが、25 年度の結果は何点で、どのような評価をされたのか伺いたい。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

毎年 12 月に、4 校の全教員に対して、4 段階による評価のアンケート調査を行っています。その結果、芦屋型指導過程の実践については、3.2 という結果となっています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

3.2 ということは、目標を上回ったということで、評価してよろしいですね。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

そのとおりでございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

じゃあ、4 点目について、お伺いします。25 年度、26 年度とともに、基礎知識・技能の習得では、目標数値を 3.3 以上とされておりますが、25 年度の結果は何点で、誰がどのような評価をされたのかお伺いします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

4 校の教員でアンケート調査を行った結果により、基礎知識・技能の習得は 2.9 という結果となっています。4 校の全教員ということになります。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

全校の教員で評価されたということですね。この評価をする数字というのは、どういうふうに見られていますか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

課長が今説明しましたように、4点満点でして、1項目全部4点で。4点、3点、2点、1点となっておりますね。達成した4点というのは、80%以上。これは、教員の感覚といたしますか、そういうアンケートでございまして、80%以上できているというのは4点。20%ずつ切って。60から79までが3点。40から59までが2点。39以下が1点と。こういう数値を出して、それでどこに該当するかということに教員のアンケートをとっています。それで、満点がそうだと思うのに4点、そういう言い方でございまして、真ん中は2.5なんです。ですから、我々は3点台を目指しておりますけれども、そういう意味でさっき2.5なんぼという話ができました。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

次は、5点目に移ります。冊子「芦屋の教育」では、26年度で第8号となっておりますが、これまでの学力向上に関する総括はされておるでしょうか。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項の規定により、町議会へ報告しています芦屋町教育委員会事務局の管理及び執行状況点検・評価報告書で総括しています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

その総括に基づいて、次の年度の計画を立てられるということでしょうか。

○議長 横尾 武志君

平成 26 年第 4 回定例会（松上宏幸議員一般質問）

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

そのとおりでございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

じゃあ、2点目に入ります。2点目の1番。芦屋の教育で文部科学省全国学力テストの25年度の目標は、全国平均Aプラス5、Bプラスマイナス1となっていますが、その結果はA、Bそれぞれどうだったのかお伺いいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

小学校、3校平均では、国語Aの平均正答率はプラス2.5、国語Bはマイナス1.7、算数Aはマイナス1.3、算数Bはマイナス1.3となっており、中学校では、国語Aがマイナス1.4、国語Bがマイナス2.4、数学Aがマイナス2.9、数学Bがマイナス3.4となっています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

この目標値を小中とも下回っているような気がしますが、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

目標値より下回っているということになります。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

先ほどの評価が下がったということをお聞きしましたよね。それについて、もう一度お願いします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

下がったという、そのとおりでございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

じゃあ、2 点目に入ります。26 年度の目標は、全国平均 A プラス 3、B プラスマイナス 1 と 25 年度を下回る目標のようですが、この結果は A、B それぞれどうだったのかお伺いいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

小学校では、国語 A はマイナス 2.5、国語 B はマイナス 5.1、算数 A はマイナス 1.1、算数 B はマイナス 3.4 となっています。中学校では、国語 A はマイナス 0.4、国語 B はマイナス 5.7、数学 A はマイナス 3.4、数学 B はマイナス 3.3 となっています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

今の結果について、どのように評価されますか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

目標値をみんな下がっているわけですから、評価のしようがないといえば、しようがないですが、大変残念に思っています。26 年度、先ほど内海議員の時にもちょっと報告いたしましたけれども、つい先日、学力向上検証委員会。その前に、すでにこの結果が出た時に校長会をしまして、早急な取り組みを校長に指示したわけでございます。学校もショックといいましょうか、こんなはずじゃなかったとこう言いますが、これは結果として出てますから、もうどうしようもないんで。私たちもこれをどうするかと、対応をしっかりとやろうということで、今取り組んでおまして。先ほど内海議員の時に課長が申しましたように、喫緊、目の前には NRT のテストが 1 月末にありますから、そこに向けてまず目標つくって、そこに行こうと。中学校につきましては、高校入試がありますので、高校入試に向けて取り組んでおこうと。そういうことで、学力の回復を図ろうとこういうふうには思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

それでは、3点目に移ります。芦屋の教育で、24年度の結果は、おおむね全国、県ともに平均を上回っている。中学校はやや下回っている。活用問題のBに課題があると評価しています。25年度結果は、小学校ではおおむね全国、県平均に近いが、3校の値の格差が大きくなった。中学校は、やや下回っている。活用問題Bに課題があると評価している。24年度は、小学校で上回っているという表現が、25年度では平均値に近いということになり、中学校は依然として下回っている。これは、徐々にではあっても下降していると思うが、26年度の結果を含め、どのような分析評価をしておられるのか、学校ごとに説明をしていただきたいと思います。

以上です。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

小学校につきましては、先ほどもいろいろ説明させていただきましたように、3校の平均で出しております。要旨（1）の②と同じ内容となります。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

小学校の3校の格差が広がっているというような表現がありましたけれども、どこの学校とどのように差が開いているのか。もう一度お伺いします。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

確かに広がっているから、危機感があるんです。私先ほどの答弁でも、3校ができる限りひつついて行きたいと。3校の格差をなくしたいという思いがありましたが、実態としては出てまいりました。

三つの小学校で、どのくらい差があるかという言い方をちょっとさせていただきますと。例えば、平成26年、ことしですけど、国語のAでは、2点ほど。3小学校の中で一番高いのと低いのとこういう比較をしています。そういう意味で数字を捉えてください。2点ほど差があるんですね。いい学校と。それから、国語のBになってくると7点くらい差がでてくる。それから、算数のAというのは、これは10点くらいあるんですね。算数のBは、12、3点くらいある。

AとBというのは、Aというのは、先ほどもお話がありましたが基礎基本のところですね。Bというのは、活用に関する問題ですから、先ほどから出ていますように芦屋の子ども達はB問題が非常に弱いというのが



平成 26 年第 4 回定例会（松上宏幸議員一般質問）

ありまして、これが広がっているというのは、10点くらい差があるというのは非常にやっぱり危機感があるわけです。そういう意味で格差が広がっていると点が広がっている。どこの学校ということは、ちょっとこらえてくださいませ。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1番 松上 宏幸君

その学力差にそのBに問題があるということが、はっきりわかっているということなんですが、そのBを高めるにはどうすればいいのかわか。そこら辺の考え方はどうでしょう。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

全国どこもBが悪いというので一生懸命なんです。日本の試験は、今まで学力を知識の量と捉えてきた時期がありますね。いかに知識を捉えるかと。しかし、それではないですよ。やはり、現在はこういうグローバル化した中、非常に変化の激しい中ですから、知識の量はもうコンピューターが知識の量はあると。そうするとじゃあどう人間を育てるかという話になってくるわけですが、言葉で言うとみずから考えて、判断して、行動する。そういう力をつけましょうと。そういうことになって来ているわけです。そうすると、やっぱり大学入試が変わらないと、高校入試が変わらないとなかなかそういうことにならない。今でも知識の量が問われている。しかし、だんだん福岡県の高校入試も文章で書くとか、考え方を書くとかいうように変わりつつあります。

しかし、芦屋の子供たちはまだまだ、福岡県もそうなんですけど、そこらが非常に弱い。やっぱり知識の量で、これはやっぱり問題は授業の仕方、学校の先生の授業の方法というふうに思っています。ですから、今書く活動を中心に子供たちに言ったことを書く、まずそこで一人学び、一人でしっかり書く、今度は共同学びという形でグループとか、いろんなグループになって、そしてお互いに意見を交換する。その中で自分の考えを深めていく。そういう活動を授業の中に取り入れています。そういうことは、すぐ結果が出るわけではないと思いますけども、そういうことを通して自分で考えて、判断していくと。そういう力をつけていこうと思っておるところでございます。

しかし、そうは言いながら、基礎的、基本的な知識、技能というのはしっかり身につけないと考える力も浮かびませんので、基礎基本の力をしっかり身につけ、そしてその次に活用する力、そういうのをつけていこうというふうに取り組んでおります。具体的には、基礎的、基本的なものは、ちょっと先ほど申しましたが、朝のドリル、昼のとか、学校の中でも時間帯の中でやっていく。それから、家庭学習に宿題をしっかりとだして、それをチェックするというそういう取り組みでやっています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

さっき、一つ質問し忘れたんですが、先ほど言葉で言われたスモールステップという指導法はどのようなのか教えてください。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

一つ一つ積み上げていく。スモールステップとは、そういう、学習の仕方なんです。いろんな学習の仕方がありますけども、もともと学習は積み上げていくものなんですけども、それをもっと、より細かく切って、その子の実態に合った課題を出して、これを積み上げていくという、そういう授業。できるだけ、個に応じたという形。ユニバーサルデザイン化という言葉がこのごろ出てまいりますけど、そういうことを授業の中で取り組んでいる、そういうことでございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

今のその一つ一つということですね。例えでもいいですから、具体的にこういうのをこうこうというのを例えがあったら教えてください。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

私は、他の教科はわかりませんので体育で言います。体育でもそういう形をやろうとしていますので。

体育にも分習法と全習法があります。先生は、柔道でしょうから。柔道にすると、まずは大事な受け身とかでしょうね。それから、そういう基礎基本的な運動を一つ一つ積み上げていって、じゃあ今から、乱取りとか、取り組みをやみましょう。こういうやり方が分集法。部分的に分けてやりましょう。

球技で申しますと、例えばバレーとかバスケットボールでもそういったやり方をやって来ました。しかし、これはあんまりおもしろくないわけですね。子供たちにとってみたら、球技はバレーを早くしたいんです。バスケットを早くしたいんです。ゲームがしたいんです。ですから、いきなりゲームをやって、その中から課題を見つけて、ドリブルをダブルドリブルしてるじゃないかとか、そういうことを見つけて、じゃあどうしたらダブルドリブルにならないかとか。今度は、技術に入っていくと。そういうやり方が二通りありますね。

平成 26 年第 4 回定例会（松上宏幸議員一般質問）

ですから、今はできる限りそういう分習法みたいなことは、体育の場合はですよ。分習みたいなことはやなくて、その運動の持っている特性、楽しさを追求する中からどういう方法に持っていくかと。自分たちで練習を考えて行きましょうと。その中がスモールステップになっていく。こういうふうに捉えております。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

次に移ります。最後になりますが、5 点目。経済協力開発機構は、日本を含む 34 カ国の学校教諭の勤務状況調査を公表しています。それによりますと、1 週間あたりの勤務時間は 53.9 時間と最長で、授業以外に部活動や事務作業に長い時間を使っている。一方、みずからの指導力に対する自己評価は極めて低く、日本特有の教職員像が浮かび上がったと。このように指摘しています。芦屋中学校の学力が低いのと関係があるのではないかと、このように思いますがいかがでしょうか。学校の先生の勤務時間の改善は、絶対に必要と考えますが、何か改善策は考えておられますか、いかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

部活動や事務作業の長いことが、中学校の学力の低下を招いているとは一概には言えないのではないかと思います。フクトのテストにおいては、全学年において、県平均を上回っています。また、12 月に整備予定の教師用のパソコンや今後の I T C 機器の導入によって、勤務時間の改善につながると思っています。また、中学校における水曜日の定時退校日の設定や、小学校における午後 7 時までに門を出るという取り組みなど、さらに町雇用による講師処置により、仕事量の減につながっていると考えます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

水曜日は定時日と設定されているようですが、それが必ず守られているのでしょうか。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

守るように指導はしています。また、各先生方によっては都合がある場合は、どうしても帰れない場合は、少し遅れて帰るといったこともあると思います。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

それから普通の日でも学校を 7 時に退校するよというよな、アナウンスもよくされとりますけども、そこら辺の実施状況はいかがですか。

○議長 横尾 武志君

学校教育課長。

○学校教育課長 岡本 正美君

小学校に関しましては、7 時に出るということは、校長みずからですね。全職員に指示を出しておまして、これは守られているというふうに思っております。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

部活による先生の勤務時間、これがかなり多くとられておるといことなんですが。例えば、柔道、剣道にしたら校外指導員がおるわけですよ。それにも必ず学校の先生がついておる。ここら辺はどうなんですか。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

部活動は、大変僕は問題があると思っています。その問題の一つは勝利至上主義になっているっていうのが一つあります。これは、指導者も保護者もややもすると勝利至上主義になってると。

一つは、このごろ、個性のある人間といいますか、特色のある人間をとろうと思って高等学校でもそういう推薦制度がたくさん出てまいりますから、そこを狙うというのは保護者の気持ちとしてよくわかるんですが。そこが一つ大変問題がある。

もう一つが、部活動の場合に教員の評価が部活動で優勝させたらいい教員っていう、やや間違った評価がどこかではある。このあたりやっぱり、部活の先生じゃなくて教科の先生であると、僕はどちらかといえばそういうことを言っていますが、やはりなかなかそうはいかないで、部活を一生懸命遅くまでやっています。中学校は特に下校の問題、女の子もたくさんいますから。今はもう早く帰らせていますので、日々の夕方帰るといのはほぼ守られています。

ところが問題は、土日の練習試合からゲーム、これがものすごく多いんです。このあたりがやっぱり、先生方が忙しいっていうのは、二言目には部活動と生徒指導とこう言います。部活動辞めたらどうかって言いますが、なかなかそうはいかない。土日を休んで家庭サービスなり自分の教材研究にしようと思うと、これ保護者から「そんなん練習せんけ、あんたんとこ弱かろうが。」とこういう非難が出てくるとい、痛

平成 26 年第 4 回定例会（松上宏幸議員一般質問）

しかゆしのところがあります。それが部活動の非常に問題だと思っています。

じゃあこれどうするかと。部外コーチが入っていただいておりますが、これまた学校のほうは部外コーチを入れることで、いろんな問題が、また別の問題が起こってくるという心配をしております。子供たちは、部外コーチを入れるというのはどちらかというと、部の先生は専門性がないんですね。中学校も高等学校も部活動の専門性があるのはほとんどいません。そういう先生が持っていますから、部外コーチが入ってくるという面がありますけども、下手をすると先生の言う事を聞かなくなる。コーチなりの言うことを聞いて、そういう心配が過去いくつかありました。

ですから、先生方は部外コーチが居てもそういう教育方針をしっかり守らせようと思って練習についておるとか一緒に入っていると、そういうことがあるわけです。ですから、部外コーチに全部任せられるというのは、社会体育でもならないと日本の部活動は変わらないだろうと思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

松上議員。

○議員 1 番 松上 宏幸君

以上で質問は、終わりたいと思うんですけども、最後に小中学校の学力向上については、芦屋町としてもかなりの予算をつぎ込んで、町長も日本一を目指すというくらい一生懸命がんばっておられます。したがって、今年度あまりよくなかったのも、次年度はいい成績を残して、みんなが笑顔になれるように、そういうふうに一生涯取り組んでいただきたいということをお願いして、質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

以上で、松上議員の一般質問は終わりました。